



保加紙系録合羽

三

4338
5







4338
5

特

サア云号とやゆ及ぶは祝云にあやうてそち遊二人もを人長ふとサア
 是とも松もぬ管領乃は差湯一志づぬ出うこそふよやくけ喜を弁
 ともあうよやくけ祝云が海や吉や中圃乃海元吉やのく夫強好て強
 倉に居らうて祝云のゆハヤしく才相へて居よよきこの極き一あり水
 かつく是利乃姫君はあし入一方もぬ大切乃祝云幣礼の依式さや
 うもあべさきに女童小雛乃をもとせ侍ひ対せ考き人も連られぬハ
 子細をよての美多一水河は不実をゆ九け程か尚上校と是利
 院遊の武士と確執ふ及ぶ初られは是利乃姫君と上校の家へ縁組
 ちバ院遊の者君を恨もきまら必定期小書バ天下の強勳サそこと



ちてま改元んとすせし嫁入乃具表立ての儀式ハ遊てまの二月ハ
 是女雛男雛乃の祝云のし腰元と男がたのててを
 とそ男雛ハ元も垂さけ武將の市場のあり難ふも更立てようふ小存
 トホるとけら内が備へてとと海くハのりかれどけ祝云に於ハ中
 定不ゆ心にとんぞへそそやせあ元け祝定ハ熱心なご高後小
 生才定改ハ本さい後乃生れ支友才也らも右弁と名表ハ存知の度
 神小某多病ゆへとて定改に跡目お漬法をそと本國安諸のし教
 書と祝ひ一おと改る乃娘と才に下されんとのり五羅くゆあやせ
 に史ハ何の何れもあ高時足利乃胎近の武士をけし松乃家と備

初下千一

幼儀納のあさしとさ正宗乃乃がは波辺教員が不持友子あのか
 瑞さ毛刀と文えんと空内は丹又又弁と云者執負と手にを刀を奪
 ひ飛込は井城又弁が屋敷へ近込とをひあゆの三胎近乃武士とも
 佐堂とて物々の指籍史友管経ねがひと直家来言又又弁ハ勿海
 又弁とをドめ理ちもかかん云一味の奴原某へ下せ並れよと再三
 とと一不評定もあく打捨並れハ胎近乃武士と控ひ法候とる某が
 能ひと許容あさこそ替候の重るお心に待ぬ足利乃娘身にめとる
 不存多そや約束返改仕るぞへスリヤけ縁組とへんがとかいふもと妹
 入るもいふもとやとくハいけんぬて下せせしとて辨へまごもあぬにコリヤ何と何そを

一ツアそ又糸と花ひるる肥進乃武士非道と知どりて立てハ
 子の破と必死に迫らバ内度虫と引裂拵人も討たれはと一とある時ハ
 ハ高家乃きんそあとあてゆるも後々の評定外振乃使へとあ
 難素りの内程云ハ管領殿の情のう捌きと多かりキ一春表向の
 ごとく内程めれ内書下さる一と枚原乃滅亡おろが月の一ツアその
 男雛乃身活う内書下コレ女雛乃破披るものもあふと武將の内
 房も子あにう心と苦うあ武將の内程とあててううとあ
 代にさ一紙さまの心程スリや肥進乃武士と拵ひ果ダ取ひとあ
 まで垂れし子細とふハ云は信と信史改えが情の計ひ形若の内程

初下上五

礼まとの強動も至事に治ぬる管領乃チツ内合点ダツの
 ま一ツツツ通れ明智なる管領の内程と怒れあ感んつらう
 ろけえる治ぬるハ内度虫乃西下一皆時も程情あさる程あせん
 ざり内度ハ沢井又糸一肥進乃法士が集り居る園覚古一立然と
 と七礼して内度あをいヤを役目丹右衛門ハお叶ハぬハ何人役目
 と妨ぐるぞ又糸糸に堀直方内通乃程心えあ役目ハ何人
 けさあ一イヤハ役目ハ丹右衛門に云付るを一人と聞き何人あ
 ぬハ一確執に及び一申三枚の史取んとあ後さぬハ治定武將ノ下
 一後なる舞子一何内虫と引手物とあ一沢井又糸と斗ハあ



書

發

本

三

安如三 春藤水

同四糸面
星
五
相

京三糸面
吉
星
二
兵
衛

大野
星
京
兵
衛

同
星
幸
三
旗

同
大
星
斬
古
工
門

同
大
星
喜
兵
衛

同
星
斬
人

同
星
亦
兵
衛

同
星
平
兵
衛



